

2021 平和運動



No. 139
【2021.8.4】

連合岩手気仙地域協議会
大船渡市猪川町前田 9-17
TEL 0192-27-8671
FAX 0192-47-3471
http://www.rengo-iwate.jp/
発行責任者：梅木 博
編集責任者：星 正和

連合 労働相談ホットライン
0120-154-052
雇用の不安 雇止め不安はありませんか？

男女平等参画の実現に向けて Shine up 研修会
日時：8月25日(水) 18:30～
場所：シーパル大船渡
【講演】
NPO 運営から見えるもの
～おばちゃんの元気の素～
【講師】
NPO 法人おはなしころりん
理事長 江刺由紀子 氏
男女間の格差を解消し、男女がともに生き生きと働き、生活できる環境を考える

戦後七十六年を迎え、戦争の記憶は遠くなりつつある中、県内の仲間と連携し、恒久平和の実現に向けた世論喚起、核兵器の廃絶を実現するため、コロナ禍を踏まえたリモート開催の中止を前提に、例年より縮小した気仙地区実行委員会(連合気仙、平環気仙地区センター、大船渡地区友愛会)を結成して気仙地区の二〇二二平和運動を展開した。

七月二十七日(日)時から「おふなぼーと」を会場に「戦中・戦後の記憶展」を開催。高教組から借用したプロパガンダ(ある政治的意図のもとに主義や思想を強調する宣伝)ポスターの展示、平和に関する報道(記録DVD)、戦争証言アーカイブスの上映、連合・平和検定のQ&Aと児童図書要約紹介を配付して平和の尊さを伝えた。

平和キャラバンは、連合車両も使って流し隊と街頭演説に分かれ気仙一円を回り、世界の恒久平和の実現と被爆者支援の強化、在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本改定など、「二度と戦争を起こさない、二度と戦争にならないように、二度と戦場に子どもたちを送らないように」とマイクを持って平和の尊さを訴えた。

一八時からは、コロナ禍を踏まえ参加者を縮小、気仙地区集会を開催し、来賓には、熊谷昭浩・東野市大船渡市議、退職者連絡会の皆さんに参加いただいた。

長崎の鐘の音に合わせて黙祷を捧げた後、主催者を代表して梅木実行委員長は「平和は自分たちの手で勝ち取るものであって、戦争の愚かさを訴え続け、二度と戦争はしない信念の基で平和な世界が持続することと挨拶。普通の生活ができていくことは平和だから」とこのことを訴えてほしい」と県実行委員会の藤岡英昭さんから挨拶を受け、事務局が綴った千羽鶴を伝達した。スローガン・課題、アピールを確認し、実行委員長だけの発声で団結ガンパローを三唱して閉会した。

岩手県地域別最低賃金は、改正時期を迎え二〇二一年度の岩手地方最低賃金審議会の議論が始まりました。岩手県の最低賃金は七九三円は、東京都一〇一三円と比べ二二〇円、宮城県八二五円と比べ三二円の格差があり、全国の下位レベルにある。

なお、最低賃金が同額でも、青森県の産業別賃金の各種商品小売業が八二五円の設定であるのに対し、岩手県の同種の産業別最賃は八〇〇円。百貨店・総合スーパーの産業別最賃は「審議の必要がない」とされ、八〇〇円で二年間据え置かれている。このことから、連合岩手は「最

2021年度最賃改定に向けた社会啓発キャンペーン



低賃金の早期格差是正」「特定最賃に係る審議の必要性」を社会に訴える啓発キャンペーンに取り組んだ。

岩手県の一人当たりの年間総労働時間は、一八五二時間で、全国平均に比べ一〇〇時間以上多く、さらに、年次有給休暇の取得率は、全国が平均五八・〇五%に対し、五五・七九%。男性の育児休業取得率は、全国六一・六%に対し二七%。全国の平均賃金を一〇〇とした場合、岩手県は八四・四七。「賃金が安く、労働時間が長く、休暇がとりにくい」この現状は、都市部との格差が縮まらず、若者の人口流出にも大きく影響しており、人手不足が深刻化する中において、県内勤労



持続可能な開発目標 SDGs

持続可能な開発目標は、国連加盟193カ国が達成を目指す2016～2030年までの国際目標である。「誰一人取り残さない」という共通理念の下、17の目標とこれを達成するための具体的な目標として169のターゲットを設定した。これら17の目標は、「5つのP」というキーワードで大別することができる。①People(人)＝貧しさを解決し健康に、②Prosperity(豊かさ)＝経済的に豊かで安心して暮らせる、③Planet(地球)＝自然と共存して地球環境を守る、④Peace(平和)＝争いのない平和を知ることから実現、⑤Partnership(パートナーシップ)＝みんなが協力し合う。子どもたちや孫など、将来世代により良い世界を残すため、出来ることから行動してみよう。

者の人材確保をさらに厳しくする要因となっている。

気仙地協は、七月二日(六)時五〇分から早朝街宣を実施するとともに、熊谷、東大船渡市議にもマイクを取っていただき、気仙地域一円を回り街頭演説をした。社会全体で雇用を維持・創出すると同時に、中小企業やパートタイム労働者の「底支え」の実現、将来不安の払拭、個人消費の喚起で内需拡大など、地域に明るい展望が感じられる、誰もが笑顔で、安心して暮らしていくことを求めている。 啓・S



岩手出身の野球選手が、プロ野球やメジャーリーグでも活躍し、連日ニュースを騒がせています。我が家の息子も、地域の野球スポーツ少年団で、毎日毎日、白球を追いかけ、夢を見るひとりで。今年度は、昨年度に比べると少しずつ大会が戻ってきてはいるものの、コロナ禍にあつて、保護者の応援の声も、声出し禁止、ラッパもダメ、などいろいろな制約があります。そんな中でも、各チームの趣向をこらした応援には、相手チームながら感心してしまうのです。

応援歌をスピーカーから流しながら、太鼓やメガホンを鳴らして賑やかに応援することはもちろん、選手の名前やメッセージをフラカードにするチーム、郷土芸能の音楽を流して踊るチームなど、どの応援からも、声が伝わってきます。

「超動なし」野球の応援6時からこんなポスターが職場には貼られてはいるもの、実際は、終わらない仕事をむりやり切り上げてダッシュする毎日。たまには定時に退勤して、汗を流している息子を見てみようかな。そして、きつと少しは速くなった球を受けて成長を感じてみよう。

らど Id 30

